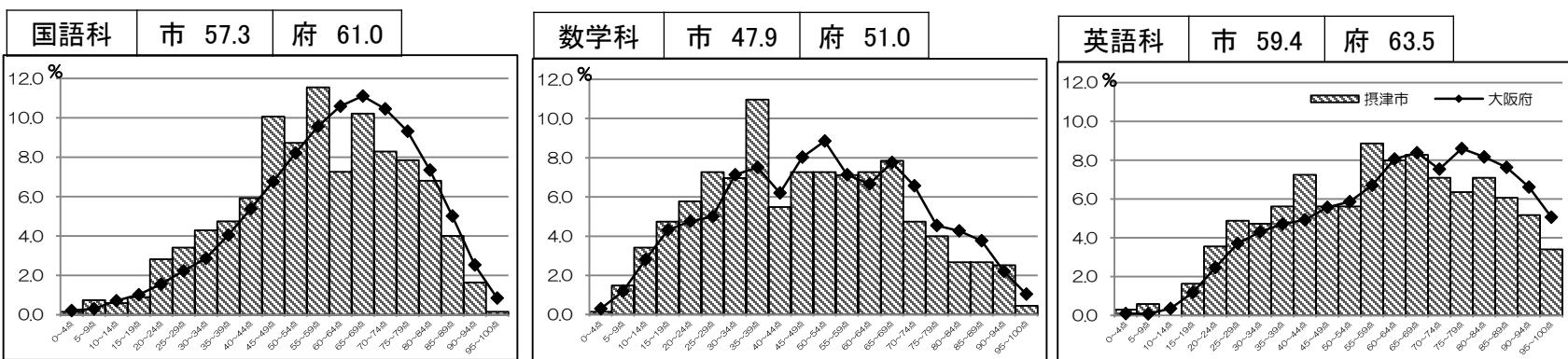


調査の概要

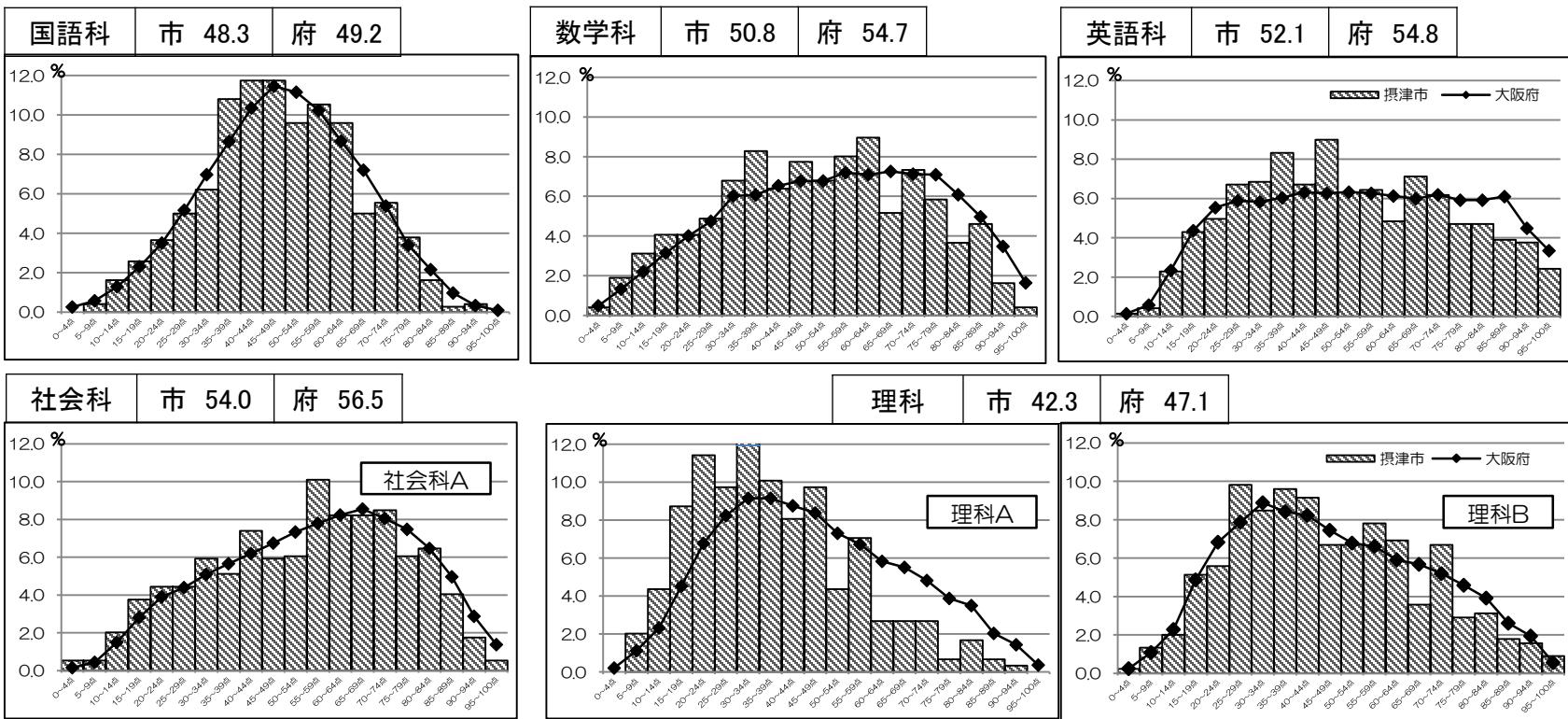
- 調査実施日 平成28年1月13日(水)
- 調査の目的
 - ◇大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒の課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 - ◇市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組みを通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
 - ◇学校が、生徒の学力を把握し、生徒の教育指導の改善を図る。
 - ◇生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。
 - ◇大阪府教育委員会は、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- 調査内容
 - 第1学年(国語・数学・英語) 第2学年(国語・社会・数学・理科・英語)
 - ※中学校第2学年の社会・理科は自校の指導計画に基づいて問題を選択しています。本市においては、社会科ではA問題を全校が選択し、理科ではA問題を2校、B問題を3校が選択しました。学年・教科別得点の平均については、第2学年理科は、選択問題全てを合計して算出したものです。
- 調査参加者 中学校5校の1年生677人 2年生746人

※教科や出題範囲が限られていることから、中学生チャレンジテストにより測定できるのは学力の特定の一部です。

第1学年得点分布グラフ・教科別平均点

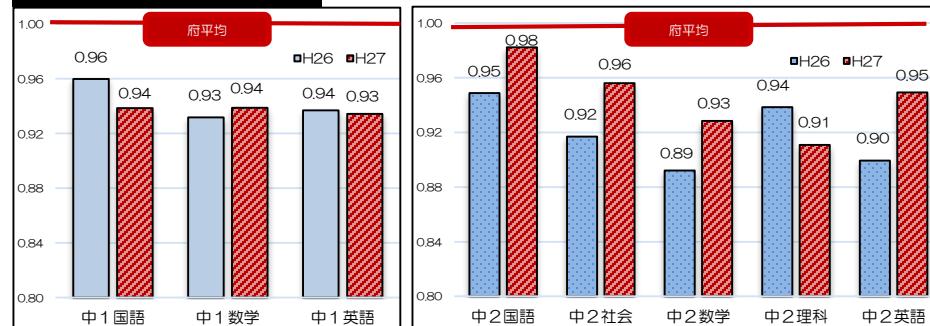


第2学年得点分布グラフ・教科別平均点



経年比較(対府比)

※府全体の平均得点を1とした時の本市の平均得点の値



調査結果について

【学年・教科別平均得点】

中学校第1学年・第2学年ともに、すべての教科において府全体の平均得点を下回っています。府との差が特に大きかったのは、第1学年の英語科(-4.1点)と第2学年の理科(-4.8点)でした。

【得点分布グラフ】

各教科の得点分布は、すべての教科において下位層の割合が府よりも高い状況です。30点未満の生徒の割合は以下のとおりです。

第1学年 国語科	8.6%	数学科	22.8%	英語科	10.9%
第2学年 国語科	13.2%	数学科	18.5%	英語科	18.8%
		社会科	15.7%	理科A	36.2%
				理科B	24.1%

【経年比較】

対府比値を前年度と比較すると、今年度の第1学年の数学科では0.01ポイント改善し、第2学年では理科を除く4教科で0.03~0.05ポイントの改善が見られます。

今後に向けて

今後は、各学校においても調査結果の分析をもとに学力向上の取組みの効果検証を行い、課題の共有を図るとともに、組織的な取組みを推進し、指導の改善につなげてまいります。

【学校】

- ・基礎的・基本的事項の習得と活用力を育むための授業づくり
- ・一人ひとりの学力課題の把握と、個に応じた指導の充実
- ・落ち着いた学習環境づくりと授業規律の確立
- ・目標に準拠した評価の研究と、それを生かした授業改善
- ・家庭学習習慣の定着に向けた取組みと地域・家庭への情報発信

【教育委員会】

- ・児童生徒の学力状況について、市全体、各小中学校、校区ごとに把握、分析
- ・これまでの市教育委員会や学校の取組みの効果検証
- ・各校の「学力向上プラン」の実現のための進捗状況の確認と指導・助言
- ・教員の授業力向上のための、組織的・継続的な人材育成
- ・安全で安心な学びの場づくりと教育環境整備
- ・地域の教育コミュニティづくりと家庭教育への支援

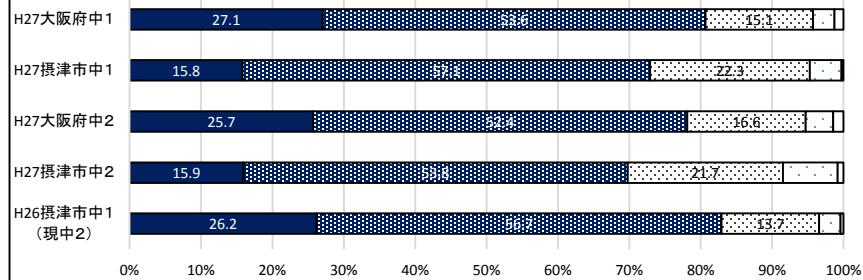
生徒のみなさんが自分自身の学習到達状況を理解することも本調査の目的です。学校、家庭での学習を振り返り、目標を持って学習に取り組んでください。学力の定着においては、家庭での望ましい生活習慣の確立とともに、家庭学習習慣を確立することが必要です。今後も、保護者や地域の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

生徒アンケート結果より

■当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない ■その他 □無回答

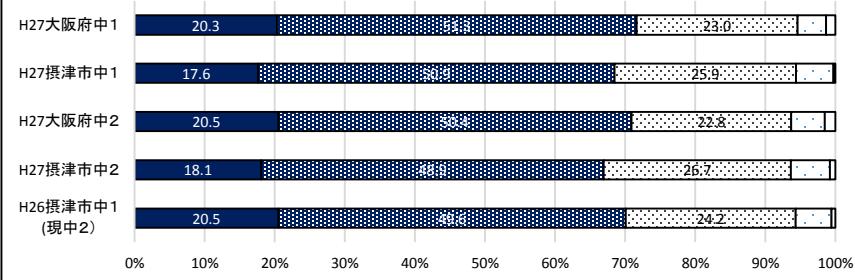
授業の内容理解度について

国語の授業の内容はよく分かる。

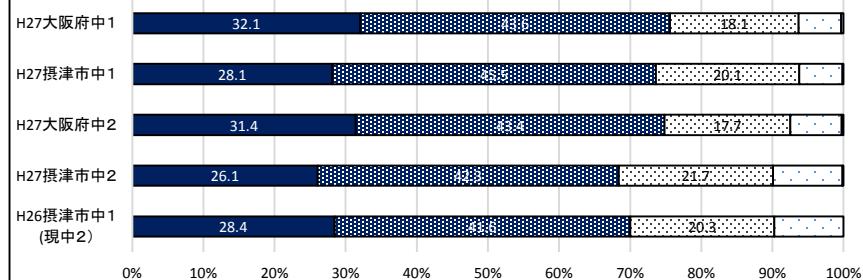


教科の学力定着のためのポイントについて

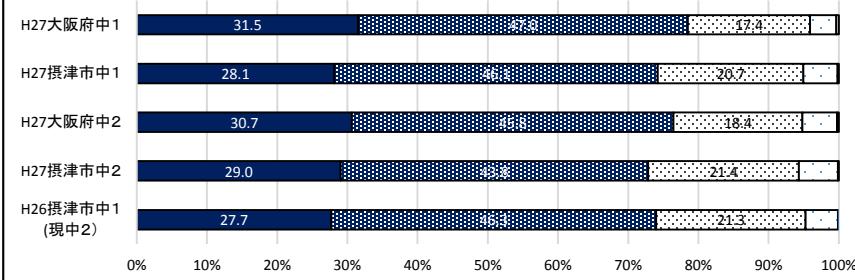
国語の授業で自分の考えを書きとき、考えの理由がわかるように気をつけて書いている。



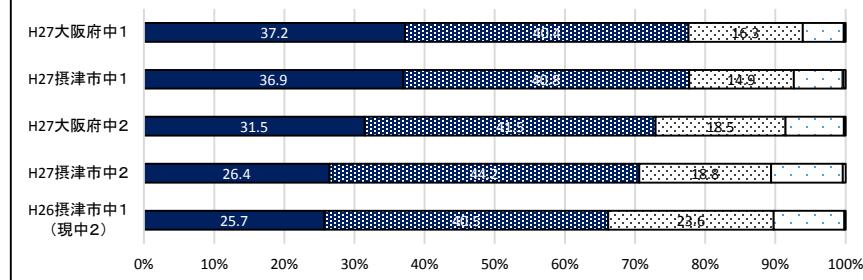
数学の授業の内容はよく分かる。



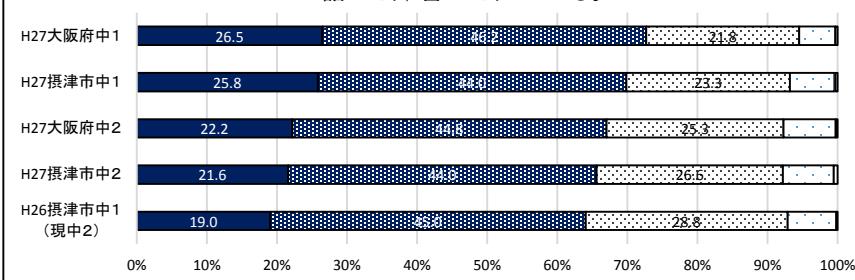
数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている。



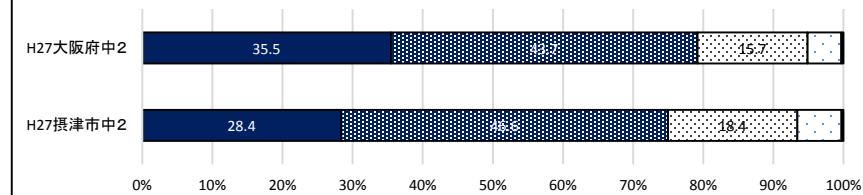
英語の授業の内容はよく分かる。



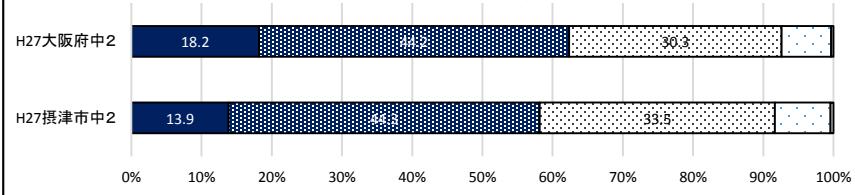
英語の授業で自分の考えを表現するとき、相手に伝わるよう工夫して話したり、書いたりしている。



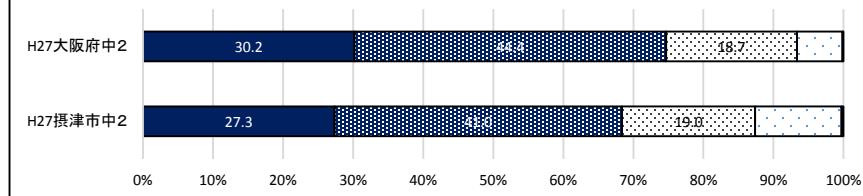
社会の授業の内容はよく分かる。



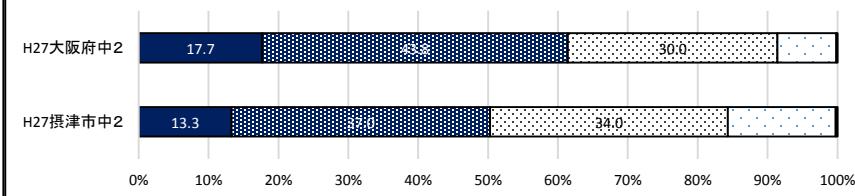
社会の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている。



理科の授業の内容はよく分かる。



理科の授業で、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている。



生徒アンケートの調査結果について

生徒アンケートでは各教科の授業の内容の理解度に関する項目と、各教科の学力定着のために必要とされるポイントを生徒自身が授業中に心がけているかどうかをたずねる項目について、調査が行われました。

【授業の内容の理解度について】

○今年度の第1学年と第2学年を比較すると、すべての教科で第2学年の肯定的回答が第1学年の割合を下回っています。

○第1学年では、英語科に関する肯定的回答の割合が府全体の割合をわずかではあるものの、上回っています。前年度の1年生と比較すると、肯定的回答の割合は数学科で3.6ポイント、英語科で1.5ポイント改善しました。

○第2学年では、すべての教科で肯定的回答の割合が府全体の割合を下回っていますが、前年度1年生だった時の回答と比較すると英語科で4.4ポイントの改善が見られます。

【教科の学力定着のためのポイントについて】

○第1学年と第2学年ともに、すべての教科で肯定的回答の割合が府全体の割合を下回っています。

○第1学年について今年度と前年度を比較すると、英語科で5.8ポイントの改善が見られます。また、第2学年の英語科では、前年度第1学年だった時の回答と比較すると肯定的回答の割合が1.6ポイント改善しています。

○社会科、理科についての肯定的回答の割合が60%に届いておらず、課題が大きいことを表しています。

※肯定的回答の割合とは、選択肢のうちの「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した合計を表します。

このような質問項目で、生徒が肯定的に回答することにつながるような授業改善が学校の授業で行われることが、次期学習指導要領がめざすアクティブ・ラーニングを実現していくものととらえ、取組みを進めてまいります。